

「ぐんまプログラミングアワード 2025 FINAL STAGE」に参加しました！

8月23日（土）に昌賢学園まえばしホール（前橋市民文化会館）にて、「ぐんまプログラミングアワード2025 FINAL STAGE」が開催されました。ファイナルステージには43組が出場し、本校からは渡邊志音さん（2年）と塚原壯平さん（1年）がチームを組み、二次審査を通過してIoT部門に参加しました。

「自販機やごみ箱が共感し、あなたと通じ合えたら？」という視点から、IoT機器を活用した Lovox（Love Box）というプロダクトを考案し、“寄り添う”パーソナライズ機能を持たせました。

この機器は、人感センサー、カメラ、スピーカーから構成され、自販機やごみ箱に設置してカメラで利用者とゴミを認識させて音声により分別のサポートを行ったり、自販機ではおすすめ商品の提案などを行ったりします。自販機やごみ箱が“感情”を持つことで利用者と寄り添うことにより、「捨てなくなる、買いたくなる、会いたくなる」自販機やごみ箱を目指しています。

今後の展望として、“ご当地 Lovox”という観光地などで、その場所限定の「性格」の Lovox を設置し、ごみ収集を通じたビッグデータの活用を目指すことを提案しました。

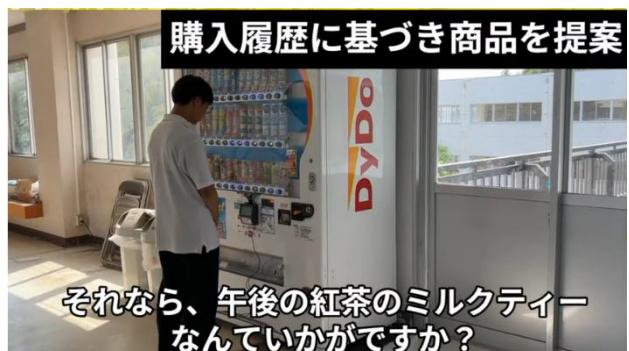
校内でのごみの分別問題から着想した共生型の IoT の発表は、システムクリエータズ賞を受賞しました。これから研究に向けてさらなる発展が期待されます。



カメラで利用者とゴミを認識します。



利用者に声を掛けます
麦茶、正しく分別できましたね。



それなら、午後の紅茶のミルクティー
なんていかがですか？



システムの概要

